

総合日本語7読む書く

文章表現成果発表



平成30年度

秋学期

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター

2018年度秋学期 文章表現成果発表

目次

課題1

課題2

課題3

「南海トラフ」のまとめ課題

ボズニユク ヴアレリア

海外に留学する意義

毛海剣 MAO, HAIJIAN

ブックレビューと論理的な文章作成のためのチェックリスト作成

陳儒玫チェン ジュウエン

『南海トラフ地震』課題

Gurova Aleksandra グロワ・アレクサンドラ

『南海トラフ』のまとめ

MISHUKOVA, MARGARITA ミシュコーヴァ・マルガリータ

ブックレビューと論理的な文章作成のためのチェックリスト作成

江林岳 JIANG LINYUE

韓国における海外留学の意義:韓国内留学文化の変化

キムヒョンウク KIM HYEON UK

『南海トラフ地震』のまとめ

陳 姿樺 (CHEN, TZU HUA)

2018年度秋学期スケジュール

課題

1：読解教材 高木隆司（2003）『理科系の論文作法』丸善株式会社

ブックレビューと論理的な文章作成のためのチェックリスト作成

『理科系の論文作法』はいわゆる教養書です。読んで、何かを得るためのものです。ここでは、参考文献を書き溜めていくクリティカル・ブックレビュー（書評）のスタイルでまとめを書きましょう。

クリティカル・ブックレビューとは、文献を正確に読み、そのうえで、問題点や疑問点を洗い出し、自分の考えや議論を展開するもの（佐藤ほか 2012：91）です。

ここでは、『理科系の論文作法』に合わせて、下記の情報を必ず入れるものとします。

1. 書誌情報（著者名、発行年、書名、章名、出版社）
2. 概要：中身を簡潔に1行程度で表したもの
3. キーワード：5つ程度
4. 要約：200字程度で、内容を簡潔に表す。
5. もっとも着目した点：あなたが特にこの書から得たことを、これまでのレポート／論文執筆の経験に照らし合わせて、簡潔に述べる。150字程度
6. あなた自身のための「論理的な文章作成のためのチェックリスト」：5に基づき、あなた自身が、本書から得た「これからレポート／論文執筆のときに、参照するチェックリスト」を作成する。項目は、本書から得られたものが主となるが、それ以外のポイントがあれば、入れても構わない。
7. チェックリストの形式は、箇条書き（階層化してもよい）とし、各項目にはチェックのための□（「四角」と打つと変換できる）を書いておく

例) 1. 明文かどうかのチェック

①耳で聞いて、わかるか

②記述量の長さ 重要度と一致しているか

【参考文献】

佐藤 望 編著（2012）『アカデミック・スキルズ（第2版）—大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会

参考文献はあくまでも参考のためで、この本に沿って書くわけではありません。

2. 読解教材 山岡耕春 (2016) 『南海トラフ地震』 岩波書店

『南海トラフ』のまとめの課題は、下記のようなテーマとします。

1. 地震・津波のメカニズム

なぜ日本に地震や津波が起きるのかをやさしい言葉で、簡潔に述べる

2. 日本の地震・津波対策はどのようなことがなされているか。

本文に書かれていたことをやさしい言葉で、簡潔にまとめる。

3. あなたの住む地域、あるいは、あなたの国では、どのような防災対策がなされているか。

あなたの住む地域やあなたの国の HP、政府の広報などから情報を取って、簡潔に述べる。

4. 今後の防災対策には何が望まれるか。

読んだこと、調べたことから得た、あなた自身の意見を述べる。

長さは 800 字から、1000 字程度。

引用は、ルールに従って書くこと。

「～によると、～」など、引用であることが明確にわかる書き方をすること。

また、文末には、どこから情報を得たのかを【参考文献】として書くこと。

3. 読解教材 ドナルド・キーン (1979) 『日本を理解するまで』新潮社

『日本を理解するまで』の課題作文は、下記のテーマから1つを選んで書いてください。

- ①「日本語を勉強する意義」
- ②「日本語を教える意義」
- ③「海外に留学する意義」

ここでは、「意義」とは、単に自己実現ではありません。(通訳になりたい、日本語を使う仕事に就きたい、等)。社会的な、あるいは国際社会における意義、使命、役割について深く考え、論理的に述べてください。ただの体験談や、エッセイにならないように、根拠を基に論理的に述べてください。

長さは800字から、1000字程度。もう少し長くなってもかまいません。

引用には、「～によると、～」など、引用であることが明確にわかる書き方をすること。

また、文末には、どこから情報を得たのかを【参考文献】として書くこと。

「南海トラフ」のまとめ課題改訂版

1. 地震・津波のメカニズム

地球の表面を覆う岩盤をプレートという。日本は北米プレート、ユーラシアプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレートという4つのプレートの上に乗っている。そのプレートは休むことなく動いたり、徐々に日本列島の下に沈み込んだりする。山岡(2016)は2011年東日本大震災を例として取り上げ、地震のメカニズムを説明している。山岡によると、「太平洋プレートが日本列島の下に向かって沈み込み、やがて日本列島の地殻を引きずり込む」という。プレートと地殻のこのような衝突のため、徐々に応力が大きくなっていく。「その応力が境界面の摩擦力を超えたら、境界面は一気にずれ動き、最初の地震が起こる」というわけである。

津波は断層がずれることで発生する現象である。つまり、地震が起こった際、海底が大きく動いた場所で津波が起こるわけである。そして断層の範囲が広ければ広いほど、海底が大きく動き、広い範囲に津波が襲う。

2. 日本の地震・津波対策は何か。

あいにく、地震の確率を予測するのは非常に難しいことである。日本政府の地震調査研究推進本部が提示した「BTPモデル」によると、その確率は0.04%である。

津波の場合は、ハザードマップを利用することが、自分の身を守る一番いい方法である。ハザードマップを使うと、どれほどの範囲が最初に浸水してしまうかということが分かり、安全な場所へ避難できる。

3. ウクライナではどのような対策がされているか。

ウクライナは地震が起こりにくい国だと言われているが、地震が発生する可能性もある。隣に位置するルーマニアにはブランチャという地震地帯があり、2018年にもマグニチュード5.8を超える地震が引き起こされた。そのブランチャ地帯はウクライナの西南地域まで達するため、そこの周辺は震域と呼ぶべきだろう。しかし、日常生活で地震の揺れを感じることはめったにないため、何の地震対策も講じていない。

ウクライナ、特に西ウクライナの地域においては、より一般的なものは洪水である。大雨や雪解けなどのため、河川が氾濫し、広い地域が水浸しになる。大量の水が速い速度で一気に市街地へ流れ込み、わずかな時間で住宅などの浸水を起こし、人的な被害が起こる場合もある。

洪水という災害は深刻な問題であるため、政府は適切な対策を取らなければならない。最も有効なのはダムを建設することである。ダム建設は20世紀の初頭から始まり、2014年1月の時点では、1103基が活用されている。

4. 今後の防災対策には何が望まれているか。

すでに起こった洪水の後処理をするより、定期的に河川の周辺を点検したり、排水路を適切な状態で維持したりするのがとても大切だと思う。またソ連時代に建てられたダムの中では極限まで酷使された物もあり、倒壊の恐れがあるため、規則的な検査が望ましい。

最後に対策改善の一部としては、被災者への配慮もなされるべきである。ボランティア団体だけではなく、政府は被災者への食物や衣類などの支給に力を入れる必要があると考える。

[参考文献]

1. 山岡耕春 (2016) 『南海トラフ地震』 岩波書店
2. <https://pidruchniki.com/1081080650828/bzhd/poveni> 『ウクライナの防災対策について』 (2019.01.29 閲覧)

海外に留学する意義

今の時代、ますます多くの学生が海外に留学して、自分で選択した大学で勉強をしている。海外において、学生は必然的に自分の国で体験したことがないことを体験する。そのため、彼らにとって海外に留学した時期は実りの多い、重要な意義を持つ人生の一つ段階となる。では、海外留学することには、一体どのような意義があるのだろうか。これから私は自分の経験と結びつけて述べていきたいと思う。

私は海外留学によって異文化理解を深めることができると考える。異文化への理解を深めることは、単に自分の価値観を再発見し、人間としての成長を促すことができるだけでなく、社会的ないし国際的な意義もある。

そもそも異文化理解とは一体何か。この問いについて、鈴木(2005)は「人種の数だけ文化がある。文化を形成しているものは、その国の伝統的な風俗や習慣であったり、教育であったり、あるいは宗教であったりする。違ったものを認めあい、違いに敬意を払いつつ、その違いを共感する。このような姿勢が異文化を理解する上で重要である。」と論述している。

また鈴木によると異文化理解には異質な他者とのコミュニケーションが必要であり、コミュニケーションから始まるのが基本であるという。そのコミュニケーションのための一つ方法は、海外に留学することだろう。

留学することは自分の国に関することを、直接他の国の人に伝えるための重要な役割を果たす。私は今海外に留学している。そしてこの前、ある他の国の友人から面白いことを言われた。「中国ではどこにでも監視カメラが付いているのですか。そうしたら、自由がないですね」と彼は私に言った。私は驚きながら「そうじゃないよ」と、彼に説明した。このように他の国に行ったことがなかったり、他の国の人と交流したことがなかったり、ただメディアなどを通じて情報を受けたせいで、そういう根拠もない思い込みが生じることがある。そこで、海外留学によって直接意見を交換できれば、相互的な異文化理解を促すことができる。

実際に学生には留学するだけのそれぞれの動機がある。前田(2016)は、 Semester留学から帰国したばかりの目白大学英米語学科の日本人学生54人に質問紙とインターネットによるアンケート調査を実施した。その結果によると、「異文化への興味・憧れ」は53.7%、「異文化理解向上のため」は51.9%と、留学した理由の過半数が異文化理解につながる項目となっていた。さらに96.3%の学生が留学したことにより、異文化に対する興味が深まったと回答している。この調査の結果から、学生は異文化を理解しようとしていることが読み取れた。異文化理解は、海外留学の理由や海外留学の価値の中でも大切な位置に置かれている。

以上のように、海外に留学することは国際的異文化理解を促進するための重要なことである。留学することで世界中の国々は相互的に理解を深められる。

【参考文献】

1. 鈴木 雅光(2005), 「異文化の理解」, 東洋大学学術情報リポジトリ『dialogos』第5号 81-92
2. 前田 ひとみ(2016), 「Semester留学の教育的価値—質問紙調査による一考察—」, 目白大学人文学研究第12号 277-290

ブックレビューと論理的な文章作成のためのチェックリスト作成

1. 書誌情報

高木隆司（2003年）「第III章 日本語の作文技術」『理科系の論文作法』丸善株式会社

1. 概要：日本語でどのような論文を書くべきか説明する。

2. キーワード：日本語、論文、明文、わかりやすい、明確

3. 要約：

著者は論文を書くときに、わかりやすい意味が明確な「明文」を書くべきだと主張している。

明文を作ることについて、語句の選び方、文の書き方、文章の書き方などのポイントを紹介した。

文意があいまいになってしまった場合は、ほかの単語に置き換えたり、漢字で表示したり、語句の順序を変えたりすることで修正するように指摘している。また、文章の構成は一つの段落に一つの主張をするという原則を守るべきであるとも述べている。

4. もっとも着目した点：

高木（2003）は漢字数が重要さと比例するべきだと述べている。しかし、筆者はしばしば形式用語まで漢字を使ってしまうため、漢字数が重要さと比例していない。また、どこで文を切るのかもわかっていない。長すぎる修飾節を書き、文は明快さが欠いてゆるくなってしまう。

そこで、今後は漢字と仮名の選び方、文の書き方などをのポイントを意識して、明確な文章を書いていきたいと考える。

5. 「論理的な文章作成のためのチェックリスト」：

- ① 記述量と重要さとは比例しているか。
- ② キーワードはほかの表現に言い換えていないか。
- ③ 修飾節の並び方によって誤解が生じないか。
- ④ 一つの段落には一つの主張だけをしているか。
- ⑤ 接続詞は適切なものを最小限に使っているか。

- ⑥ 書き言葉を使っているか。
- ⑦ 漢字と仮名の表記は適切なのか。
- ⑧ 余計な飾りをしていないか。
- ⑨ 長すぎる文はないか。
- ⑩ 句読点のつけ方は適切なのか。

1. 地震・津波のメカニズム

地震とは地下の硬い岩盤が急激に壊れる現象である。地震を起こすのはプレートの動きである。したがって、海のプレートが日本列島の下に潜り込むとき、列島の地殻を引きずり込む。そうすると、プレートと地殻の境界面に沿って、引きずり込みを元に戻そうとする応力が発生し、それが大きくなると、境界面が一気にずれ動き、地震が起こる。

震源が海にあると、津波が起こる可能性がある。地震で押し込まれた地殻が反発して一気に戻るとき、地殻は上に載っている海水を動かし、津波となって沿岸を襲い、内陸にも被害をもたらす。

2. 日本の地震・津波対策

山岡（2016）は、地震・津波対策の例として三つの対策を挙げる。

① 「BPT モデル」

地震を予測するため、日本政府の地震調査研究推進本部が導入した確率モデルである。このモデルを用いて、地震が起こる可能性を計算できる。

② 耐震改修の補助金公募

自治体が耐震改修の補助金を公募している。しかし、応募する世帯がどんどん減っており、山岡は問題であると指摘している。

③ ハザードマップ配布

ハザードマップを見て、津波に侵入しやすいところにいることが分かると、安全な場所へ移動できる。

3. ロシアの防災対策

ロシアは地震があまりなく、洪水の方が多い。TASS によると、毎年、40-70 の大規模な洪水や浸水が起こり、その被害も非常に大きい。

例えば、Ria Novosti によると、2012 年クバン地方で大きな洪水が起こり、多数の死傷者が出た。しかし、洪水の後、将来の災害を防ぐための対策を政府が何も実施しなかったと指摘された。

現在でも、法律では自然災害に関する対策は決定されていない。洪水を知らせるシステムが開発されたが、その開発が始まったのは 2014 年で、現在でも完全に整っていない地域もあり、間違っしてシグナルを出し、住民を混乱させることも多い。

洪水が起こった後で、死傷者の家族には補償金が支払われるが、その金額も明確に決まっていない。

対策として全国で行われているのは、生活安全基礎という学校の科目だけである。その授業で、災害などの危険な状況でどうすればいいかを教えている。

4. 今後の防災対策に望むこと

ロシアは洪水が多く、現代でも災害が発生してから行動することが多いため、ロシアの政府は防災対策にもっと着目してほしい。筆者が必要であると考えた対策の主な点は四つある。

- ① 災害を知らせるシステムを改善すること。
- ② 法律的に防災対策を策定すること。
- ③ 過去の経験に基づき、災害の可能性が高い地域で常に建物や設備の耐震性・土手の状態をチェックする自治体の組織を設立すること。
- ④ 洪水がよく起こる地域には火災の訓練だけでなく、洪水に関する避難訓練も行うこと。

災害後に行動するのではなく、被害を防ぐための対策を考えることが望ましい。

【参考文献】

1. 山岡耕春（2016）「南海トラフ地震」、株式会社岩波書店、第1刷発行。
2. Ria Novosti, 2012年7月クラスノダール地方に起こった洪水（2013）
(<https://ria.ru/20130706/947654759.html>) （2018年12月11日閲覧）
3. TASS, 2012年—2017年にロシアで起こった洪水や浸水（2017）
(<https://tass.ru/info/4291130>) （2018年11月20日閲覧）

地震と津波について・日本とロシアでの防災対策

1. 地震・津波のメカニズム

日本列島は太平洋プレート、ユーラシアプレート、北米プレート、フィリピン海プレートの上に乗っている。そのプレートの動きによって地震や津波が起こる。

山岡（2016）によると、「太平洋プレートが日本列島の下に沈んでいる。プレートは沈み込みにつれて日本列島の地殻を引きずり込む。プレートと地殻の境界面に沿って、引きずり込みを元に戻そうとする応力が発生し、徐々に大きくなっていく。やがてやがてその応力が境界面の摩擦力を超えて大きくなると、境界面は一気にずれ動き、最初の地震が起こる」という。津波のメカニズムは、引きずり込まれた陸のプレートが摩擦力の限界に達すると、一気に跳ね上がり、それに反応している海水も一気に動かすためである。

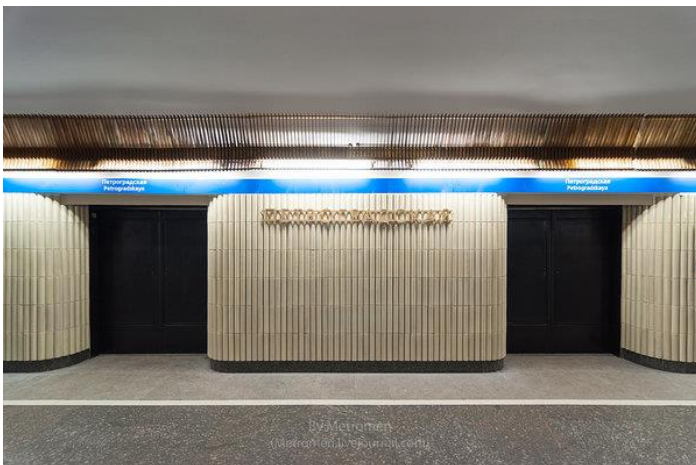
2. 日本の地震・津波対策

山岡（2016）は、以下の対策を挙げる。

- BPT モデル
地震を予測するため、日本政府の地震調査研究推進本部は「BPT モデル」という確率モデルを利用する。しかし、確率は 0.04% だけである。
- 耐震改修の補助金公募
山岡 耕春（2016）は、「自治体が耐震改修の補助金公募を行ったが、応募する世帯がどんどん減っている。」と述べている。
- ハザードマップ
津波はどのような被害を与えるかを知るために津波ハザードマップが配布されている。マップを使うとどれほどの危険さがあるかわかり、安全な場所へ避難できる。
- 避難訓練
日本では学園や学院などでも避難訓練が行われるべきだという。その上、「避難訓練コンサート」のような微妙な防災訓練を行うときもある（ANN News 2018年2月16日）。

3. 母国（ロシア）での防災対策

私が住んでいる西ロシアは日本と違い、地震は起こりえない場所である。しかし、日本と違う自然災害が発生する。それは山火事、洪水や大雨である。サンクトペテルブルクという街はネヴァ川の上に乗っているため浸水の可能性があるという。そのため、サンクトペテルブルク地下化鉄の2号線の一部の駅ではホームドアが採用されている（『サンクトペテルブルクの地下鉄』2017）。



「ペトログラードスカヤ」地下鉄駅



「マヤコーフスカヤ」地下鉄駅

また、ロシアは地震があまりないため、訓練は火事を想定した避難訓練だけが行われている。

4. 今後の母国での防災対策に望ましいこと

現代の状況を見ると政府は自然災害に対して何もせず、無視しているということが明らかである。その結果、国民は甚大な被害を受けてきた。政府は防災対策のことを考慮すべきである。これまで以下のことが起こったが対策は何もないということが証拠である。

- ① 2012年7月6-7日に大雨が急激な洪水に発展し、10つの街を襲った。そのため、171人が死亡し、53千人が罹災し、そのうち29千人が家を失った。2013年6月～10月にかけて大雨と同時にアムール川からの洪水が始まった。そのため、190千人が罹災した（「2012年—2017年にロシアで起こった洪水や浸水」, 2017）。
- ② 2010年にモスクワの近くにあった泥沼が燃え、スモッグがモスクワを取り巻いた。その結果、都市の人が蒸し暑さで悩まされ、高い温度で倒れた。空も見えなくなったせいでいくつかの国際便がキャンセルされた（「スモッグがモスクワに戻ってきた」, 2010）。
- ③ 2014年に起こった山火事によって火が家や畑に燃え移る33つの事件があった。（「ロシアで起こった山火事」, 2014）

①の場合、被害を受けた人々を救出するだけでなく、洪水によって破壊された建物を再建するために補助金を出す必要があると思う。

②の場合は、国民はスモッグがどれほど有毒なものかということをも自分自身で調べなければならなかった。対策とまではいかななくても、スモッグから身を守る方法についてテレビやラジオで伝えることが望まれたが、それもなかった。せめて健康相談などの窓口を設けるなどを実施されるべきである。

③の場合だけは対策があった。山火事を起こさないようにすることはできないのは当然であるが、起こった火事をできるだけ消すようにしたのは確かである。

まとめとして、政府は災害が起きてから行動したが、国民への支援は少なく、後は「なんとかなる」という態度を示している。①のようなことで全てを失った人は捨てられたように感じるこ

とは残酷だ。そのため、②のようなことでも市民のことを思いやって警報を出したり窓口を設けたりすべきであるとする。

【参考資料】

山岡 耕春 (2016) 『南海トラフ地震』 岩波書店 (新赤版)

『演奏中に地震想定 “避難訓練コンサート” が開催』 ANN News 2018 年 2 月 16 日
<https://youtu.be/Cs-P7AjafBU> (2019 年 01 月 29 日閲覧)

Andrey Zhdanov (2017) 『サンクトペテルブルクの地下鉄』 (出版社: Centropoligraph)

『2012 年—2017 年にロシアで起こった洪水や浸水』 Tass 新聞 (2017) <<https://tass.ru/info/4291130>>
(2019 年 01 月 23 日閲覧)

『スモッグがモスクワに戻ってきた』 Gazeta 新聞 (2010)
<https://www.gazeta.ru/social/photo/socialsmog_vernulsya_v_moskvu.shtml?updated#!photo=11> (2019 年 01 月 23 日閲覧)

『ロシアで起こった山火事』 Tass 新聞 (2014) <<https://tass.ru/info/1121375>> (2019 年 01 月 23 日閲覧)

2019/2/5

総合日本語 7 読む書く

学籍番号：201854540

名前：JIANG LINYUE

江林岳

ブックレビューと論理的な文章作成のためのチェックリスト作成

・書誌情報：

高木 隆司 (2003) 「第三章 日本語の作文技術」『理科系の論文作法』丸善株式会社

・概要：

本書はこの章節では読みやすい論文を書くための日本語の使い方を紹介している。

・キーワード：

論文 「明文」 表現 語句 接続詞

・要約：

論文では意味深い文章を書くより、読みやすい文章を書いたほうがよい。そのため、完成した文章が理解しやすいかどうかをチェックすることが大事である。語句を選ぶ時には、論文に相応しい表現を使うと同時に、漢字や仮名の使い方も明瞭にした上で書き方を一致させるべきである。そして、平易でかつ精確な文を書くため、語句の順序や親和性、コロケーションなどに気を配らなければならない。それから、文章の構造が読者に分かるように段落を分け、接続詞を正しく適度に使うことも望ましいという。

・最も着目した点：

以前、日本語の先生に文章を書けばわかりやすい文章を書いたほうがよいと言われたことがあるが、どのような文章がわかりやすいと言えるかは明示されなかった。そこで、本書を読み最も着目した点は、読みやすい文章の具体的な書き方である。「明文」、つまり「読んでわかる文章」の書き方をめぐり、句読点から段落まで多くの例を挙げながら、詳しく説明していることが非常に役立つと思う。

・論理的な文章作成のためのチェックリスト：

文章を書いた後、この7つの点をチェックする：

- ①正しい引用の仕方で引用しているか
- ②引用例や統計データの信憑性が十分あるか
- ③キーワード・専門用語が統一されているか
- ④キーワード・専門用語をあらかじめ定義、あるいは説明しておいたか
- ⑤推理・論説の論理性が十分高いか 例が主張を支えられるか
- ⑥段落ごとにきちんとまとめているか
- ⑦構造がはっきりしているか
- ⑧自分で読み上げて滑らかに読むことができ、疲れる感じはないか

韓国における海外留学の意義

「韓国内留学文化の変化」

海外留学を選択する理由は時代や社会の変化に従って変化する。韓国の場合には、紀元前から、1897年朝鮮時代が終わるまでは立身出世するために留学してきたという事実がある。その時代には身分制度を克服するためには中国で勉強するのが一般的だった。その後、1900年代頃には日本へ留学するのが立身出世の道と言われていた。そして、今から十年前までは、海外へ留学した経験があると、就職・結婚など社会全般の活動にメリットがあった。

韓国中央日報の記事（「留学、行くのか行かないのか」2014年11月3日）によると韓国企業は1997年IMFの危機以来留学したことがあるなら誰でも採用する、いわゆる「言わず採用」したが、最近は大きく変化したと述べている。変化の理由についてこの記事では、昔に比べ、留学生としての言語的・国際的なメリットがなくなり、むしろ、一般志願者と比べ賃金が高くなる点や、海外留学していた間に海外文化に慣れてしまい、韓国文化に適応できないことなどのデメリットのほうが多いと述べている。更に、韓国内の教育も国際的になり、あえて海外留学する必要がなくなったのではないかと分析している。

さらに、海外留学の必要性が薄くなっており、海外留学は慎重に考慮するべきだと言われ始めた。韓国の留学専門家の「RealSAT」代表の話が記述されている記事（「最近、海外留学傾向は看板より進学・進路に焦点」2014年4月23日）によると、留学した履歴だけではもう競争力になれない時代が訪れている。留学のため、就職・進路計画に加えて実務経験が重要だと述べている。また、自分が海外留学して何を果たしたいのかを綿密に計画しないと、意味のない時間つぶしに過ぎなくなると留学を考えている学生たちに忠告する。

それにもかかわらず、韓国の単純暗記式の教育に挫折した学生たちは自分の未来を探す一環として、小学生から大学生に至るまで、新たな環境で勉強しようと留学を選択するケースもある。

結果的に、外国語の能力を向上させたいと考えたり、国内教育に不満足していないなどのそれぞれの理由で海外留学を選択する学生が少なくないが、前述のように、韓国では海外留学が立身出世の近道だった時代は過去のものとなった。自分の進路を真剣に考え、海外留学が必要なのかどうか正確に判断することが最も大切な時代へと変化したといえるであろう。

私にとって日本への留学は将来に日本系の会社で働きたいと考えている上、六ヶ月間日本での留学生活で文法や単語など以外にも、文化や歴史などの日本の社会的な部分まで勉強することができて、非常に役に立つ時間だと思っている。現在も日本での留学を希望する韓国人の後輩たちが様々な質問

をしてくるが、私は逆に「君が日本で留学したい理由はなにか。」と質問する。一般的に、後輩たちは漠然と日本語学科だからと答える。しかし、もっと自分が留学してから果たしたいことを考えてほしい。韓国の留学文化は変化しているが、以上に述べてきたようなこの変化を気づいて共に変化しようとする学生はまだ少ないと思う。海外留学を旅行のように気安く考えずに、専門家や先輩の声を参考にして判断するべきだと思う。

【参考文献】

チョン・ヒョンジン、キム・ソヒョブ 他5人(2013年)「留学、行くのか行かないのか」<<https://news.join.com/article/11904338>>

クオン・ヒョンス RealSAT (2014年)「最近、海外留学傾向は看板より進学・進路に焦点」<<http://news.join.com/article/14513386>> 2014年4月23日

2019/02/05

総合日本語 7 読む書く B

学籍番号：201855011

名前：陳 姿樺 (CHEN, TZU HUA)

『南海トラフ地震』のまとめ

1. 地震・津波

山岡 (2016) は、「地震とは地下の硬い岩盤が急激に壊れる現象である。」と定義している。南海トラフ地震が起こる原因は、太平洋プレートが日本列島の下に沈んでいて、日本列島の地殻を引きずり込むことである。そして、プレートと地殻の境界面に沿って、引きずり込みを元に戻そうとする応力が発生し、徐々に大きくなる。やがてその応力が境界面の摩擦力を超えて大きくなると、境界面は一気にずれ動き、最初の地震が起こる。

また、その地震が起こったあと津波は起こる。津波というのは、海底が大きく動いて隆起し、その隆起によって海水が大きく持ち上げられることである。

2. 日本の地震・津波対策

山岡 (2016) によれば、日本の地震対策は二つある。

- ① 地震を予測するため、内閣府では「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会」を組織すること。
- ② 地震調査研究推進本部は「BPT モデル」という確率モデルを用いて、地震が発生する確率を計算すること。

また、津波の方も対策二つある。

- ① 津波ハザードマップを利用し、津波は海岸の高さよりも陸上での浸水深に着目すべきこと。
- ② 人が流される危険性のある深さである三十センチメートルと木造の住宅が被害を受ける目安である二メートルは二つのよく覚えておくべき数値になること。

3. 台湾の防災対策

台湾の中央気象庁によると、1999年9月21日、台湾南投県を震源としたマグニチュ

ード7.3の「921大地震」が起こった。2,400以上の方が亡くなり、負傷者も11,000人にのぼり、倒れた家屋は約52,000棟もある〔筆者訳〕。

この地震をきっかけとして、政府は地震に対する態度が厳しくなり、防災という概念を全国の人に教えるため、9月21日を「防災の日」と定めた。翌年（2000年）から毎年9月21日には、学校も含めた各所で、避難訓練や防災への意識を高める活動が行われている。自分が住んでいる場所の避難経路を必ず確認し、防災商品を持って屋外の避難場所へ行くという訓練を実施している。

4. 今後の防災対策には何が望まれるか

台湾は日本と同じ地震帯に属するが、国民と政府の防災意識は日本よりかなり弱い。学校や会社で定期的に避難訓練があるが、みんな投げやりな態度で、また大きな地震が決して起こらないと考えているかのようである。そこで、台湾に必要な防災対策を三つ提案する。

- ① 国民の防災意識を高めるように、学校教育から地震に関する知識や避難方針を指導し始めること。
- ② 避難訓練をより効果的に実施する必要がある。住んでいるところ、勤め先の避難場所とそこへの経路を必ず確認し、本当の地震を想定した避難訓練を実施する。
- ③ 防災グッズを準備しておき、非常食や保存食やトイレに関する道具をカバンに入れること。

台湾の場合、政府がより完全な防災対策を作ろうという前に、まず国民自身が防災の意識を向上させることが重要であると考ええる。

【参考資料】

- 山岡 耕春（2016）『南海トラフ地震』岩波書店（新赤版）
- 交通部中央氣象局 「地震」
<<https://www.cwb.gov.tw/V7/earthquake/>>（2018年11月20日閲覧）
- 交通部中央氣象局 「地震與防災」
<<https://www.cwb.gov.tw/V7/prevent/plan/conference/2018data/course2.pdf>>
（2018年11月20日閲覧）

3901422 日本語総合7 読む書くB

1.0 単位 秋 ABC

毎週木曜日 1 限 (8:40-9:55) 国際講義棟 9L101

担当：堀 恵子

メールアドレス：hori.keiko.gb@u.tsukuba.ac.jp

1. 到達目標

- ・新聞記事などを読み、構成や内容を理解して適切な要約ができる
- ・物語、エッセイなどを読んで、その内容に基づく小論文や意見文が書ける
- ・読み手を意識した分かりやすい構成の文章が書ける

2. 授業内容

- ①要約：新聞記事を読んで、要約をする
- ②読解&作文：3つの文章を読み、内容を理解する。その後、その内容を基にした作文を書く。

3. 受講者

外国人留学生のうち特別聴講学生(学群)が受講できる。日本語の新聞記事を読める程度の読解力と、それを表現できる作文力、漢字・語彙力が必要。日本語能力試験 N1 レベルが望ましい。

★プレースメントテストのレベルに合っていない人で、どうしても受講したい人は、成績が D や C になる可能性があることを覚悟しておいてください。

4. 評価

| | |
|-------|-----|
| 課題作文 | 45% |
| 要約問題 | 15% |
| 期末テスト | 40% |

ただし、授業に 70%以上 出席できない場合は D (不合格) になります。
また、授業に遅刻した場合は出席点が 0.5 にな

5. 教材

プリントを配布する

6. 参考文献

記事要約 『中上級のにはんご』 創作集団にはんご <<http://ss-nihongo2.cocolog-nifty.com/blog/>>

読解1【教養】 たかきりゅうじ 高木隆司 (2003) 『理科系の論文作法』 丸善株式会社

読解2【新書】 こうしゅん 山岡耕春 (2016) 『南海トラフ地震』 岩波書店

読解3【小説】 ドナルド・キーン (1979) 『日本を理解するまで』 新潮社

7. 宿題

Manaba (<http://www.ecloud.tsukuba.ac.jp/manaba/>) に提出してください。

8. スケジュール

➤ 授業内容は、受講生の状況によって変わる場合があります。

| | 日にち | 内容 | |
|----|--------|------------------------------|---------------------|
| 1 | 10月4日 | オリエンテーション、レベルチェック | |
| 2 | 10月11日 | 記事要約1 要約の仕方 | 読解1 (1) 教養書 |
| 3 | 10月18日 | 記事要約2 | 読解1 (2) |
| 4 | 10月25日 | 記事要約修正 | 作文1 要約とチェックリスト |
| 5 | 11月1日 | 引用のルール | 読解2 (1) 新書 |
| 6 | 11月8日 | 記事要約3 | 読解2 (2) 単語調べ |
| 7 | 11月15日 | 記事要約修正 | 作文2 地域の防災への取り組み①クイズ |
| 8 | 11月22日 | 記事要約4 | 作文2 地域の防災への取り組み②初稿 |
| 9 | 12月6日 | 記事要約修正 | 読解3 (1) エッセイ 防災改稿 |
| 10 | 12月13日 | 記事要約4 応用課題① | 読解3 (2) |
| 11 | 12月20日 | 記事要約4 応用課題② | 作文3 私にとって日本語を勉強する意義 |
| 12 | 1月10日 | 記事要約4 応用課題③ 成果発表集の作成① | |
| 13 | 1月24日 | 記事要約4 応用課題③フィードバック 成果発表集の作成② | |
| 14 | 1月31日 | 期末テスト (要約、読解、作文) | |
| 15 | 2月7日 | 期末テストのフィードバック、成果発表集の発表会 | |

9. 受講者カード

「受講者カード」を書いて、担当教師に出してください。



♪新しい学生→プレースメントテスト成績 83点以上 J7 レベル

♪2018年の春学期を受講した人→「総合日本語6」「総合日本語7」の成績

10. クラス名簿作成

manaba 総合日本語7読む書くA→登録キーの番号を入れて登録

コースメンバーリストから名簿を作成しますから、授業時に必ず設定を行うこと

「総合日本語」の授業登録

- ① 学類の支援室で科目登録用紙をもらう
- ② 授業の先生にサインをもらって、支援室に出す

来週以降も受けない人は、
必ず登録してください!